

サマータイム

JJ1SXA/池

日本で言う「サマータイム」は、「デイト・セービング・タイム」といい、冬の日照時間の短い緯度の高い国で、せめて夏場は早く仕事を切り上げて屋外スポーツやレジャーで陽にあたろうというもののだそうです。

福田総理を初め、議員さん達の中には、結構賛成派がいるようで、早い時期に実施の可能性もでてきました。

様々なメリットが見込める緯度の高い欧州諸国が導入するのはわかるが、緯度の低い日本を含めたアジアではどうなのか？夏に時計を1時間ずらすと省エネ効果があるらしいというだけで、実際にはどうなのでしょう？

廃止案が出されている国や州もあるようですし、米インディアナ州で行なわれたサマータイム効果の研究では、省エネどころか1～4%の増エネという結論が出たとか。

実際に導入されたら、時刻の手直しは、パソコンはじめ家中の機器をどのくらいやることになるのだろうか？個人のことで手間がかかるだけだが、社会的インフラや、企業のシステム手直しのコストは膨大のようです。

日本中の信号機を調整するのに500億円、企業になると年2回で2000億円以上の経費がかかるという話もあります。

医療現場でも深刻のようです、日本睡眠学会が発表した試算では、サマータイム導入により睡眠障害や不登校、遅刻、交通事故の増大などで膨大な経済的損失を招くという。

そもそも日本列島は縦に細長いため北海道と沖縄では大きな日照時間差があり、全国一律にサマータイムを導入するには不適な気がしますし、日本においては通勤時間が長い勤労者が多く、また多くの民間企業や一部官庁では 21 時～22 時過ぎ、あるいはそれ以降までの残業が常態化しており、1 時間程度帰宅が早まったからといって「明るい時間に帰宅する」ことは到底不可能でしょう。

全国一律にサマータイムを実施しなくても、夏期と冬期で、企業や官庁は就業規則を変更して対応できるのでは無いでしょうか、日照の有効活用ということであればその程度のことで事足りると思います。

省エネ効果があるというなら実施する意味があるが、増エネになるのでは意味が無いので、きちんと検証した上で実施してもらいたいものです。

欧米の先進諸国が導入していて、先進国で実施していないのは日本だけだと、福田総理は言っているが、本当にそうなのか？

終戦直後の 4 年間実施したが、根付かなかったでは無いかというような、単純な理由での反対も考え物ですが、諸条件を十分に吟味してもらいたいし、まして政争の道具としえ使うなどは飛んでも無い話です、そんなことの無いように期待します。